

「不易流行」

「不易」は、よき伝統を守りながら(不易) 進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって「理想」を創造する

にぎやかな過疎をつくる

去る11月27日(水)に東京渋谷にあるNHKホールで、全国町村長大会がありました。全国各地からほとんどのすべての町村長が出席し、内閣総理大臣、総務大臣を始め、数多くの国会議員の出席で大盛況の大会です。この大会で、町村長へのメッセージという形で講演された、明治大学農学部教授の小田切徳美さんのお話が心に残りました。それは、「にぎやかな過疎をつくる」というものでした。人口データをみる限りは依然として過疎であり、自然現象が著しいために、人口減はむしろ加速化しているが、地域内では小さいながら、新たな動きが沢山起り、なにかガヤガヤしている雰囲気伝わってくる。そんな現象が人口規模の比較的小さな自治体で起きているそうです。「人が人を呼ぶ」というフレーズは、私が日々更新しているブログのタイトルであり、



▲全国町村長大会の様子(講演する小田切徳美さん)

それが小田切教授の口から発せられたことで、強く関心を持ちました。外に開かれた地域づくりに取り組む地域住民地域で自ら「しごと」を作ろうとする移住者地域への関わりを持つうとしてくれる関係人口、社会貢献活動が活発化している企業、そういった多彩なプレイヤーがごちゃ混ぜになつてうごめいている。そんな地域は生き生きとして、楽しい町なのではないかと。江府町でも役場がサポーターとなって、関係団体と連携、協力しながら、そのような「にぎやかな過疎」をぜひ作り出していきたいと思えます。

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム(※)活動報告

新年あけましておめでとうございます。先月号でもお伝えいたしました。役場の若手職員が班に分かれ、事務改善について話し合う「小さなカイゼン部活動」は町民向け発表会にむけて最終調整に入っています。一方、役場全体としては、令和元年11月7日(木)に、全職員を対象とした、「第1回新庁舎移転に伴う作業等の説明会」を行いました。ガイドラインや、

ファイリングのルール化について説明があつたほか、「毎月25日を書類整理の日とし、課内や各自で机の周り等の書類を片づけること」も示されました。話は「小さなカイゼン部活動」に戻りますが、ある班では「書類整理の日」が役場全体で浸透していくために、率先垂範で実践し始めました。書類整理を啓発するためのチラシを作成し、役場各事務所の

入り口や壁などに貼り付けを行いました(左写真参照)。これにより書類整理の動機づけにつながることが期待されます。また、整理の状況をまとめた庁内報を、定期的に配布することも予定しています。

お互いが職場のことを考えることは、相手の立場になって考えるということ。それこそが「当事者意識」であり、江府町が目指す姿のひとつです。最終的には住民サービスの向上につながるよう取り組んでいきます。



▲役場各所に貼られている啓発チラシ

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。

これまでの活動はこちら!

これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。